

#394 「聖書が語る本物の希望—キリストの復活と輝ける将来」

私たちの国籍は天にあります

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

終活中の皆さん。本日はイースターの集いにたくさんご来場頂きまして、ありがとうございます。先ほど、“終わり良ければ総て良し”というお話がありましたが、私もそのスライドを見、関わりが深かった方ばかりなので胸いっぱいになりながら、一つ思ったのは「望みのある晩年っていいなあ。」

つい先日、駒川中野（こまがわなかの）にある ATM でお金下ろすために並んでたんですが、私のすぐ前の方はずいぶん高齢のおじいさんでした。その方が終わって、私が機械の前に立ってタッチパネルを見たら、通帳を忘れてはるんですね。「大事なもん、忘れてますよー」と渡そうとした時に、ビックリしたんです。通帳の表紙に暗証番号書いてあったんですよ。

なんで暗証番号って分かったか。“暗証番号”で書いてあるんですよ。これはね、暗証番号の役割を果たしてないですよ。でも、なぜそうするかといたら覚えられないからですよ。それ見ながら、歳取るって大変なことだなあと思いました。

クリスチャンであってもなくても、歳を取れば目はかすみ、耳は遠くなり、足腰は弱くなり、世話をするよりもされる側に回り、かつて社会的に活躍していた人たちも忘れられ、自分と同年代の友達たちは一人欠け二人欠け、そして、人生の最後に待っているのは、未知の得体の知れない死の世界。

もしこれが人生なら、こんなに苦しいことはないし、晩年を迎えることほどしんどいことはないと思ったんですけど、先ほど紹介された 17 人、1 人は赤ちゃんでしたが、皆ただの老人じゃない。望みのある人たちです。

先日ある詩人が書いてました。「地べたに散った花って、何の役割があるんだろう。空を見上げる気力すらない人たちに、季節の移り変わりを教えているじゃないか。」

天を向く気力も体力もない うつむいてばかりの人が地面に散り落ちている桜を見た時、「もう春が来てるよ。そんなにがっかりすんなよ」と励ましてくれるじゃないか、という内容の詩でした。

亡くなられた方々は、ある意味散った花です。でも、物悲しい・寂しい・苦しい・苦い…そんなんじゃない。残っている私たちに勇気を与え、「望みのある晩年があるぞ。望みのある人生があるよ」と教えてくださっているように思ったんですね。

そこで今日は、この人たちが共通して持っていた信仰の希望について 一緒に考えたいと思います。

使徒の働き 4 章 12 節

「この方（イエス・キリスト）以外には、だれによっても救いはありません。

天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

「イエス・キリスト以外に救いはない」と言っているのですが、なんと排他的ではありませんか。これしかダメだと。

先ほどの 17 人は皆、これを告白として持っていたのです。「私にはキリストしかない。」「私にはキリストがあるから、全部なくなっても大丈夫だ。」この信仰です。

なぜキリストでなければならないのか。なぜイエス・キリスト以外に救いはないのか。

3つのポイントでご紹介します。

1) イエス・キリストだけが人となられた神だから。

聖書は神について書いてあります。その神は宗教の神ではなく、この世界を造られた神。あなたの作者。人間が作った神々ではなく人間を造られた方。偉大な創造主が人となってくださった。人を経験した神／創造主はイエス・キリストだけだ。

先日 小学3年生の女の子の作文を読んで、とても心が打たれました。

この女の子は迷ってるんです。クラスメートから「明日の誕生会に来てよ」とお招きを受けたけど迷ってる。実は、みんなから嫌われている子だったんですね。

「お母さん、私、なんか行きたくない。プレゼントも持ってないし。気が進まないし。行かなくてもいいかな。」そしたらお母さんが「絶対行き。」「でも、プレゼントが…」「クッキー焼いてあげるから、それ持って行き。」

「え～」と思いながら、お母さんの断固たる決意に押し切られるようにして誕生会に行ったら、誰も来てない。たくさんのお菓子とコップが並んでるけど、誰も来てない。時間になっても誰も来ない。そのうち、その子が泣き出した。なんか言わなあかん！

咄嗟に出たのが「やったー！ お菓子食べ放題！ うちら兄弟多いから少しのお菓子取り合いやけど、今日は2人で全部独占！ 食べ放題やあ！」

それに引き上げられるようにして、2人でケーキとコーラとおやつと、吐きそうになるまで食って。

家に帰って、「私のほか誰も来なかったけどめっちゃ楽しかったし、一緒に遊んでたら案外いい子だというのが分かった。」そしたらお母さんが「最高のプレゼントを渡すことができ良かったね！」最高のプレゼントとはクッキーではありません。一緒にいるということです。

喜ぶ時に一緒にいて一緒に喜ぶ。泣いている時にそばにいて一緒に泣く。人生を共有する。

その子が「誰も来てくれへん」と泣いている時に、「いや、2人で食べ放題！ こんなイイ面もあるじゃない」とか。最高のプレゼントとは寄り添うことです。物ではない。

神はこの世界において、私たちに必要なものや素晴らしいものをいっぱい下さいました。

自然界も太陽も空気も水も。でも最大の賜物(たまもの)／プレゼントは、神が人に寄り添うために、人としてこの世界に来てくださったことなのです。

人類の一員となって、人が泣いている時に一緒に泣き、苦しんでいる時に一緒に苦しみ、そして罪に悶えている者の罪を赦し、死に怯えている者に「怖がらなくていい。」

そのように、人に分かるように神の愛を伝えるためには、人になるのが一番手っ取り早い方法なのです。人となられた創造主なる神はイエス・キリストだけです。

先ほどの 17 人の中に、私の義理の父が入っていました。キリストを信じた時に、仏壇を電動のこぎりで切り刻んだという。「こんな物は神ではない！」

それ動画に撮ったんですけど、皆さんにお見せするのはあまりにも…と思ったので。

彼は後期高齢者になってから、集会に来てくれるようになったんです。集会に来て、話しが始まるとね、もうほんとに5分も経たないうちに寝るんですね。静かに寝てくれたらいいですよ。時々寝言。いびき。私はもう、前で話してくださっている方に申し訳なくて、何回もつついて。その度に「おおー。」「おおー。」もうそれが辛くて辛くて。

でも、本人が一番辛かったんですよ。終わるといつも言ってました。「聖書の話は分からん。この人の話は難しい。もっと若かったら頭に入ったかも分からんけど、この歳になって神様の愛とか色々説明されても分かれへん。聖書の話は難しい。分からない話 聞いてたら眠くなるんや。」

しかし、そんな彼にも転機が来ました。いつものように眠っては起こし、眠っては起こし。そして、同じような会話になったんですね。「神の愛は分からん。聖書の話は分からん。」それで聞いてみたんです。「もしかしたら、聖書がよく分かるようにならないと神様は愛してくれないと思ってませんか。聖書が分かってても分からなくても、神様の愛は変わりません。聖書のことが全然分からなくても、神様は熱烈に愛して下さっていますよ。」そしたらしばらく考えて、「分かった。」「何が?」「神の愛が分かった。」

元弁護士で陸軍経理学校卒業の、これまた後期高齢者の方が集会に集って下さってたんですが、しばらくして「最近よくご実家にお食事に招かれて。色々話して下さるんですけど、『こっちは分からんでも、あっちは分かっているから大丈夫』という話をするんです。どういう意味ですかね。」「こっちというのは人間の事だと思います。あっちというのは神様の事だと思います。人が神の愛が分からなくても、神はそのことを分かった上で人を愛して下さっている。」「そうですよね。そういう風に言ってました」というのを聞きながら、「えっ、この人（義父）なりに伝道してたんや」と驚きでした。

皆さん、神様の無条件の変わらない愛に触れたら人は変わります。本当に愛されているということが実感で分かるための形あるものとして最も良いスタイルは、神が人となって、人に寄り添う姿勢を見せることでした。キリストは全ての人を愛しておられます。神のことがよく分からなくても、分からないあなたのことを本当に心から愛しておられる。このように人となった神はイエス・キリストだけ。だから、キリスト以外に救いはないと言うのです。

2) イエス・キリストだけが、人の罪のために身代りになって死んでくださった方だから。

17人の中のHさん、この方は本当にバリバリの大阪のオバチャンでしたね。誰かは皆様のご想像にお任せしますが、自分で旅行のプラン立てて、家族一族引き連れて、大きな車運転してあっちこっち、日本アルプスをはじめとして（ちょっと言っちゃったんですけど）旅行しまくって。バイタリティーある方だったんですけど、一つ忘れられない会話があるんですよ。

ある時何かの話で「筋トレやってます」いう話になったんです。「私 毎日腕立て 30回、腹筋 50回 やってるんですよー。」「高原さん、いいこと教えてあげましょか。どんな数え方でやってる?」「腕を曲げて伸ばして1回。」「でしょ。それアカンわ。数え方変えたほうがええ。」「どう変えるん?」「腕を曲げて伸ばして1万円、2万円、3万円言うたら長続きする。」「そうかなあ。」そういうこと言ってワッハッハと笑う、ほんまに大阪のオバチャン。

でも、ある時からパタッと集会に来られなくなって。守口の病院に入院されてました。行ったら、「背中が痛くて痛くて。ずっと入院してるけど全然治んないのよ。」

ご家族と一緒に主治医、若い先生でしたが、専門用語で全部説明するから、「あんな説明では誰も分からんだろうな」と思いました。全身に癌が転移して骨にも転移した。背骨に転移した癌の激痛。七転八倒。大変です。それで、普通のモルヒネの150倍と言われている医療用モルヒネ、痛みだけを取るペインコントロールをやって、しばらく静かな時間がやって来た。その時に会話しました。「もう、痛かってん。痛み取れたら嬉しい！」そら、そうでしょう。「でも、イエス様は十字架の上で、これよりもっときつい痛みやったんやねえ。」

彼女は「集会で聞いて、忘れられないメッセージが一つある」と。「イエス・キリストは全ての人の罪の身代わりとなって、十字架に掛かって罰を受けてくださった。全ての人の罪を背負って十字架に掛かってくださった。でもね、もし世界中で罪人があなた一人だけだとしても、あなただけのために身代わりとなって十字架で死んでくださる方です。」

これを聞いた時初めて、私のために死んでくださったんだということが分かった。そして、既にクリスチャンでしたが、この方以外に私の救い主はないと改めて思った。

ホスピス(癌やエイズの看取りの医療施設)を大阪で最初に開設したのは淀川キリスト教病院でした。初代のホスピス長はクリスチャンの精神科医 柏木哲夫(かしわぎ てつお/1939-)さん。「末期患者に寄り添うために、医者・ナース・ケアする人たちには共感力が必要だ」と言うんです。では、共感力はどうやって身に付くんだろう。彼は“置き換え法”だと言っています。自分と目の前の人をイメージの中で置き換える。入れ替える。

例えば、患者さんがベッドに横たわっています。ドクターである私は枕元に椅子を置いて話しを聞く。その時イメージの中で、私がベッドの患者で、ベッドの患者が椅子に座っているドクター。私はこのドクターの前で、苦しんでいるただの患者。私はどんな言葉を掛けてもらいたいだろうか。どんな言葉は言って欲しくないだろうか。「相手と自分を入れ替えたら、どんな言葉を掛けたいか少しずつ共感できる、その力が発達するんじゃないだろうか」と仰っていました。

キリストは、イメージの中で神と罪人の立場を入れ替えたんじゃないありません。全く罪の無いキリストは、神から離れて自己中心になっている罪人の人間と立場を入れ替えるために、約2000年前に十字架に掛かってくださったのです。全く罪の無いキリストが私たちの全ての罪を背負って、本来人が死後に受けなければならない裁きを受けるために、十字架の上で苦しんでくださいました。そして、神の子の立場を罪人に提供するために、ご自分のいのちを差し出してくださったんですね。

人間で、自分を究極的に幸せにしてくれる人に対して抵抗できなくなるんじゃないありませんか。こんなにも良くして下さるんだったら、その方ともっと一緒に喋っていたい。一緒に歩きたい。一緒に過ごしたいと思うじゃないですか。

Hさんにとってキリストの招きは抵抗できないものになりました。

この方だけが、私のために一つしかないいのちを十字架の上で捨ててくださったから。
この方以外に、私のために死んでくれる人なんかいない。
人となった神 イエス・キリストだけが、私のために死んでくださった。これが第 2 番目です。

3) イエス・キリストだけが、十字架に掛かって 墓に葬られて 3 日目に死を突き破って復活した方だから。

17 人のスライドの中に、私の家内のいとこ D さんが登場しました。
生まれて間もない時に高熱、ポリオ（小児麻痺）に罹って、はたちになるまで車椅子にも乗ることができなかつたと伺いました。だけどメチャクチャ行動的な方。日本電動車椅子サッカー協会初代会長。イギリスまで遠征行ってる。で、自分のことを「ジョージと呼んでくれ」と。よう分からんかったんですけど。中日ドラゴンズが大好きでね。とにかくアクティブな方。
この集会にも、特別集会の度に来てくださいました。よく覚えています。

この方の行動力の源泉の一つは死への恐怖ではないか、と私は思っていました。
ある時間いたんです。とにかく、死ぬのが怖くて怖くて仕方がない。
特に阪神淡路大震災、1995 年 1 月 17 日。私も忘れもしません。もう大揺れに揺れました。
私たちはそういう時、すぐさま机の下に逃げ込んだり、扉を開いて表に出たり、色々対策を取ることができる。

だけど、重度重複障害を負っている方は「危ない！」と思った時、咄嗟に自分で自分を守ることができない。もし大きな地震が来た時 1 人だったら、建物が崩れるに任せて生き埋めになるだけ。
もし火事になった時そばに誰もいなかったら、建物ごと焼かれる。
弱さがありますね。自分で移動することができない。

それだけに却って、人の無力さ・人間の本質の弱さ・死に対して無抵抗で何もできないことについて、よくよく考えておられる方でした。なので、死について束の間忘れさせてくれるような様々なものや行動に熱中なされたのではないかな、とも考えました。

彼が倒れて救急病院に運ばれた時、家内と 2 人で駆けつけました。そしたらもう、死の恐怖です。話すことができない状態でしたが、聞く力は最後まで残されていたのでお話しすると、聞いているということがハッキリ分かりました。そこで、単純にイエス・キリストの福音をお話したのです。

「イエス様はあなたの全ての罪を負って、全部十字架の上で帳消しにしてくださってますよ。イエス様は死んで 3 日目に復活した方です。イエス・キリストを信じる人は、永遠の天国に行くことができます。死んでも魂は天国。この体は、やがてキリストが来てくださる時に天国用の体に変えられて、新しくよみがえることができます。」

みるみるうちに険しい顔が笑顔になって行って。涙が流れて。そして耳元で祈りました。

ところで、この方以外には、だれによっても救いはありません。
この言葉、いつ・どこで・誰が・誰に・何を語っているのか。

いつ ▶ キリストが十字架処刑されて 1 か月半くらいの時に。
どこで ▶ キリストが十字架処刑されたエルサレムの町中で。

誰が ▶ キリストが逮捕された時、巻き添えを恐れてキリストを 1人残して逃げ去った弟子たちが。
誰に ▶ キリストに死刑判決を下した、当時のユダヤ社会で政治的権力を握っていた責任者たちに。
何を ▶ この方以外には救いはない。

キリストに死刑判決を下したその人たちに向かって、以前は怯えていた弟子たちが「この方以外には救いはない。なぜならこの方だけが、死んで墓に葬られて 3 日目に復活したからだ。」
かつては巻き添えになることを恐れて逃げた人たちが、なぜそんなことを言うことができたのか。
見たんですね、キリストの復活を。何度も繰り返して。

私はキリストの復活を見たことはありません。でも信じている。
なぜ見たことないのに信じているのか。弟子たちのこの証言を信じているんです。
「私たちはキリストの復活を見ました。よみがえったキリストと 40 日間生活しました。」

この後 彼らはキリストの復活を宣べ伝えたために殉教していきますが、ひるむことなくそれを宣べ続けるんですね。もしこれが作り話なら、人間は嘘のために死ねませんよ。
「私たちは、自分が見たこと聞いたことを話さないわけにはいかない！」と、キリストの復活を宣べ伝えたんです。死んで終わりではない。死を天国の玄関口に転換してくださった方、それがイエス・キリストなのだというんですね。

昨日夜 10 時半くらい、11 時近かったかな。今日のお話の準備をしていたのですが、これ以上やっても寝てしまうと思って、途中でやめて家まで歩いて帰ってました。そしたら若者が自転車に乗ってスーッと私の所に来たんですね。「誰や、こいつ」と思ったら、「あ、お父さん。」息子でした。
「どっかで見たおじさん 立ってる 思ったけど、やっぱりお父さんか。」「そうや、お父さんや。」

2 人で道々話しながら帰ったんですが、とっても良い時間でしたねえ。
子供たちが幼かった時、よくこうやってお散歩したなあと思いながら。家に帰ってからもその余韻に浸り、少し思い出にふけていました。そして、1 個思い出したことがあったんです。

昔 奈良にドリームランドという遊園地がありました。ユニバーサルスタジオが出来てから、関西の遊園地はバタバタと死に絶えて行ったのですが、その頃はまだドリームランドがあって、1 日フリーパスをもらって、家族で一日中遊び倒したんですね。

ドリームランドにはジェットコースターがあって飛鳥（あすか）という名前。さすが奈良ですね。なんちゅうことはないジェットコースターなんですが、ちょっと普通と違うのは、レールを支えている枠組みが鉄骨ではなく木材。なので、乗っていると微妙に揺れるのです。
ずーっとコースターが上がって行くと、ビミョーにギシッギシッ軋むんですねえ。
普通のジェットコースターはスピードでスリルを味わうけど、飛鳥は崩壊する可能性を、バラバラと倒れていく可能性を予期して楽しむという。実に得体の知れない物だったんですけど。

私、これに乗りたかった。それで彼に言ったんです。「これに乗ろうや。」「僕、こんなん好きじゃないからいいわ。」「小学生のくせにナニ言ってるんだ。小学生はジェットコースターに乗るって決まってるんだよ。」「でも、乗りたくないから。こういうの好きじゃないから。」

